

# 江の川上流水害タイムライン勉強会 ニュースレター

令和元年6月20日（木）みよしまちづくりセンター(13:30～15:30)

江の川上流水害タイムラインの作成に向けて、参加機関が集合し、江の川上流の水害特性や浸水リスクを把握し、防災行動項目の抽出や懸念事項・課題を確認・共有することを目的とした江の川上流水害タイムライン勉強会を開催しました。

-次第一-

1. 開会挨拶
2. 江の川上流域の水害特性と平成30年7月豪雨について
3. 江の川上流水害タイムラインの特性と検討会の進め方
4. グループワーキング
5. 質疑応答
6. 今後のスケジュールについて
7. 閉会挨拶

## ◆ 参加機関

三次市	広島県警察本部
危機管理課	三次警察署
土木課	安芸高田警察署
水道課	備北地区消防組合 消防本部
下水道課	安芸高田市消防本部
安芸高田市	中国電力(株)
危機管理課	西日本電信電話(株)
社会福祉課	西日本高速道路(株)
管理課	西日本旅客鉄道(株)
上下水道課	備北交通(株)
広島県	(株)三次ケーブルテレビジョン
危機管理課	国土交通省 三次河川国道事務所
道路河川管理課	河川管理課
広島県 北部建設事務所	道路管理課
事業調整 土砂法指定推進班	国土交通省 土師ダム管理所
管理課	気象庁 広島气象台
広島県 西部建設事務所	
協同組合三次ショッピングセンター	
協同組合サングリーン	
(株)ディア・レスト三次	
社会福祉法人 水明会	
社会福祉法人 三次市社会福祉協議会	
社会福祉法人 ちとせ会	
社会福祉法人 清風会	
清風荘	
サンホーム	
サンブリエ	

オブザーバー	国土交通省 浜田河川国道事務所
--------	-----------------

## ■ 江の川上流水害タイムラインの特徴

### ◆ 平成30年7月豪雨の特徴と課題

- 梅雨前線の停滞により断続的に非常に激しい降雨となり、尾関山及び南畑敷水位観測所で観測史上最高水位を記録した他、複数の観測所において氾濫危険水位を超過
- 広範囲で浸水被害が発生（280戸）

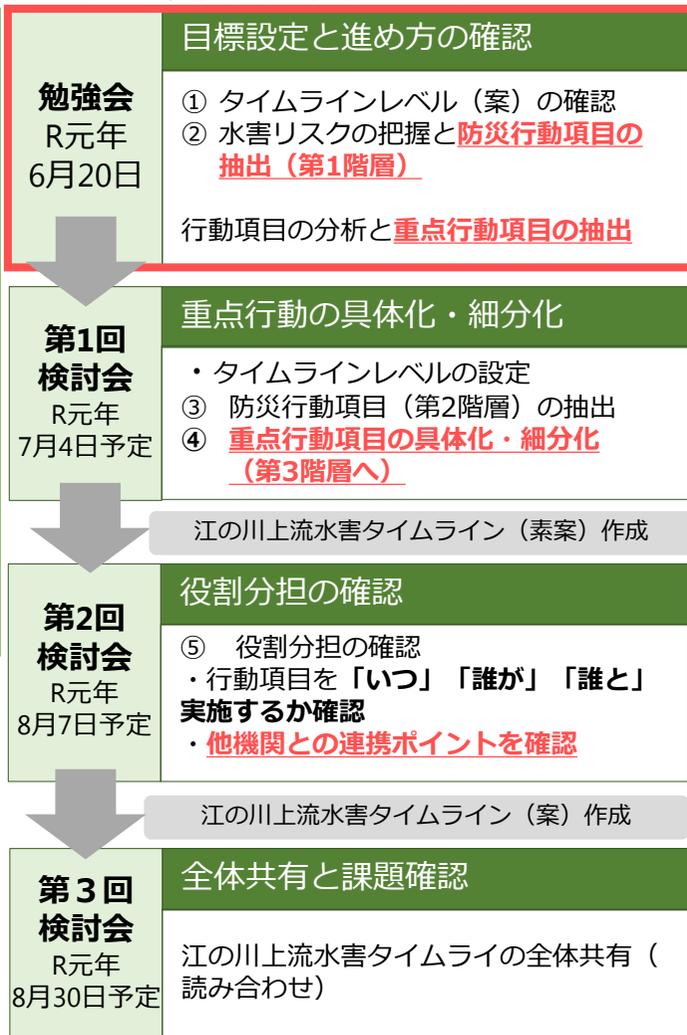
### ◆ 江の川上流の水害特性（想定最大規模降雨）

- 三次市、安芸高田市とも市街地や平地のほぼ全域が水没し、多くの立退き避難者の発生が想定される。
- 堤防や山に囲まれ、長期湛水が発生し、孤立化するエリアが存在する。
- 土砂災害や浸水等により通行規制の可能性はある。

### タイムライン作成のポイント

- 広範囲に及び市街地の水没  
⇒ 住民の的確な避難行動に向けた対応の実施
- 氾濫流の貯留による長期湛水  
⇒ 長期避難に備えた事前準備の実施
- 交通網の途絶による孤立化  
⇒ 早期の復旧活動を行うための多機関連携

## ■ ワーキングスケジュール



出席：26機関、52名  
(タイムライン参加機関：37機関)

## グループワーキング1 水害リスクの把握と自己分析

【Step1】 4つのテーマ（項目①～④）について、各機関・部署において自己分析を実施（浸水被害リスク図を確認し、水害リスクを把握）

【Step2】 自己分析シートを使って、各グループ内で機関・部署ごとに発表

機関名	部署名	氏名
※複数記載の場合は連名で記載して下さい。		
①水害発生時におけるミッション	②自機関に係る水害リスク	
<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な河川情報の発信</li> <li>お客様の安全確保</li> <li>早期の機能復旧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●●施設が倒壊のリスク</li> <li>●●設備が浸水により機能不全</li> </ul> <p style="background-color: red; color: white; text-align: center;">浸水被害リスク図で水害リスクを把握します。</p>	
③タイムラインに期待すること	④水害時の防災行動に対する懸念事項	
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設被害による機能不全を回避するための対策方法の検討</li> <li>車両の水没を回避するための、退避タイミングや退避場所の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大量の情報の処理集約</li> <li>住民の避難につながる情報発信内容・方法</li> </ul> <p style="background-color: green; color: white; text-align: center;">平成30年7月豪雨の実態も踏まえて抽出</p>	



↑自己分析の様子

←自己分析シートの記入例

## グループワーキング2 水害発生時の重点行動項目の抽出

【Step 1】

「タイムラインレベルごとの各機関の主な行動項目」（右図）を参考に、実施する項目にチェックを入れ、項目に不足がある場合は追加で記入

参加機関	情報伝達・収集	機関内調整・対応	他機関との連携
気象台	<input type="checkbox"/> 情報の収集 <input type="checkbox"/> 気象情報の発表	<input type="checkbox"/> 体制の構築	
河川管理者	<input checked="" type="checkbox"/> 情報の収集 <input checked="" type="checkbox"/> 雨量・水位情報の発信 <input checked="" type="checkbox"/> 洪水警報	<input checked="" type="checkbox"/> 体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 点検・点検 <input checked="" type="checkbox"/> 災害対策用資機材の確認	<input checked="" type="checkbox"/> 被害想定 <input checked="" type="checkbox"/> 河川施設の対応
道路管理者	<input type="checkbox"/> 情報の収集	<input type="checkbox"/> 体制の構築 <input type="checkbox"/> 点検・点検 <input type="checkbox"/> 災害対策用資機材の確認	<input type="checkbox"/> 管理施設対応
自治体	<input type="checkbox"/> 情報の収集	<input type="checkbox"/> 体制の構築 <input type="checkbox"/> 点検・点検 <input type="checkbox"/> 災害対策用資機材の確認	<input type="checkbox"/> 管理施設対応 <input type="checkbox"/> 住民支援 <input type="checkbox"/> 避難所・避難所 <input type="checkbox"/> 災害対策用資機材の確認 <input type="checkbox"/> 避難所・避難所への対応
県	<input type="checkbox"/> 情報の収集	<input type="checkbox"/> 体制の構築 <input type="checkbox"/> 点検・点検 <input type="checkbox"/> 災害対策用資機材の確認	<input type="checkbox"/> 管理施設対応

実施する項目にチェック

不足する項目を追加

【Step 2】

チェックした行動項目のうち、各機関・部署ごとの自己分析シート「④水害時の防災行動に対する懸念事項」に関わる行動項目を中心に重点行動項目を抽出し、付箋に書き出し



↑グループでの分析の様子

←グループワークシート

【Step3】

各グループ（防災行動の目標が重なる機関・部署で構成されたグループ）で重要度・影響度と多機関・自機関の2軸に付箋をグループワークシートに貼付け、分析



【Step4】

グループワークシートを全体で発表

## グループワーキング発表

グループ名	主な発表内容
避難対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>要配慮者支援施設との情報の連携や、住民への誘導が重要であり、支援の仕方を改善したい</li> </ul>
大規模避難・救助	<ul style="list-style-type: none"> <li>何よりも情報収集が大事。そして関係機関で体制を構築した中で情報共有していくことが重要。</li> </ul>
防災情報広報・報道	<ul style="list-style-type: none"> <li>一番の使命は情報を発信すること。発信機関やマスコミなど、多機関での連携が必要となる。</li> </ul>
緊急・福祉避難施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一には施設利用者の安全を守ること。避難者の受け入れはどのタイミングで依頼が来るのかを把握したい。</li> </ul>
社会基盤（土木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>一番大事なのは河川等のインフラの安全管理であり、情報収集や関係機関との連絡、要請が重要となる。</li> </ul>
社会基盤（交通・運輸）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自機関として必要なものは点検、巡視であるが、発信する情報は多機関にも影響するため重要度が高い。</li> </ul>
社会基盤（ライフライン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期復旧するための災害対策機器、資材等の準備、または点検等の事前実施が重要である。</li> </ul>



## まとめ

- 防災行動の目標が重なる機関・部署で顔合わせを行い、**懸念事項や課題を共有**できた。
- 水害リスクをイメージした上で、**各機関の防災行動の流れや、重点的に実施すべき行動項目を確認**できた。
- タイムラインのベースとなる行動項目の第一階層（行動種別）を抽出**できたので、今後の検討会ワーキングにて重点行動項目の具体化・細分化や役割分担の確認を行っていく。

【次回】 第1回江の川上流水害タイムライン検討会 7月4日（木）予定  
 ・重点行動項目を具体化・細分化